

発言抄

遊びが取り戻す子どもたちの笑顔

NPO法人病気の子ども支援
ネット遊びのボランティア理事長
坂上 和子さん

病院に入院している難病の子どもたちと遊ぶボランティア活動を、6人の仲間と1991年に始めました。06年にNPO法人をたちあげて、現在では約70人のボランティアが在籍するまでに活動の輪が広がっています。

20年ほど前、区役所の訪問保育士をしていた際に、訪れた病院で出会った難病の子どもたちは、何の楽しみもない個室でじつと痛みに耐え続けていたのです。一緒に遊ぶことで笑顔をとり戻し、病魔と闘う力をつけてもらいたいという願いから、東京の病院で活動を始めました。

私たちの訪問を子どもたちは心待ちにしてくれていきます。共働きの親や一人親もいるので、日中たった一人で過ごす子どもたちが少なくありませんからね。年齢にあわせておもちやを300点ほど用意して、原則マンツーマンで遊びます。

ボランティアと交流するようになってから、それまで無口だった子どもたちも心を開

いてくれるようになりました。医師との意思疎通がスムーズに図れるようになったほか、ボランティアが来るときだけは、いつも嫌がる薬を早めに飲んでくれるようになるなど、思わぬ効果も生まれています。

当初、病院は事故や感染を心配して、私たちの活動に肯定的ではありませんでした。しかし子どもたちの変化を目の当たりにして、今では歓迎してくれています。

一日中、付き添わなければならない親たちはストレスを抱えて苦しんでいましたが、私たちが訪問する日は「安心して外出できます」と語ってくれるなど、つかの間の安らぎを感じてもらえているようです。

来年で活動が20周年になるのを機に、難病の子どもたちがいつでも遊びに来られる居場所を、病院のそばに作ることを計画しています。子ども親たちも集い、お互いに悩みを語り、励ましあえる場になればうれしいですね。



さかうえ・かずこ 1954年生まれ。上智社会福祉専門学校卒。明治学院大学社会学部卒。新宿区役所に保育士として勤務の後、06年から現職。